

# 北海道へ

ネイサン プリンズ

今年6月から8月までの3ヶ月をかけて、僕はパートナーのさやと二人で北海道まで行ってきました。この旅の目的は主に二つ。ひとつは、日本の食と教育に関するオルタナティブ、既存のものとは異なる選択肢としてどんなものがあるかを知ることでした。ですから、そういった農園や学校をたくさん見て回りました。日本に永住したいと考えていたので、住む場所の候補地を探すことがもうひとつの目的でした。田舎に引っ越して暮らしている方々の経験を実際に聞いてみたかったのです。

5月29日、僕たちは今治を出発し徳島に向かいました。廃棄物ゼロ推進で有名な上勝町と、移住者にとってもオープンなことで知られる神山町のことが気になっていたからです。また、車が1台もなく戸数100ほどの、小さくてとても美しい島、手羽島にも立ち寄りました。田舎での暮らしについて、また、田舎に住みたいという僕たちの希望について、たくさんの人々と語り合いました。こういった場所を訪れ、話を聞いてみて、日本の田舎で暮らすことについて楽観的でいられなくなる要素が2つ出てきました。まず、地域の人々は他人に対して強い期待と不安を持っているということ。そして、偏狭で保守的な傾向にあるということです。それを考えると、周囲との調和を保つためには、自分を変えたり自分たち自身の信条を犠牲にしたりする必要があるのだと考えるようになりました。

それまで僕は長い間、日本の田舎に暮らすことを夢見ていました。しかし、旅に出てから1週間もたないうちに、その夢がしぼんでいったことをはっきりと覚えています。僕とさやは、僕の故郷であるニュージーランドで暮らすことを真剣に考えるようになりました。

次に、徳島からフェリーで和歌山に渡りました。和歌山では、土とわらと木を使って、自分たちで家を建てたという方を訪ねました。その手作りの家はとても美しく、彼らはまるで芸術作品の中に暮らしているようでした！フリースクールにも行って見ました。結局そこで1週間ボランティアをすることになりました。ここでは、自由に遊び、自由に学び、生徒たち同士で議論し決定するようになっていました。そして、屋外の自然の中でたっぷりと時間を費やしていました。

再び移動し、さまざまな自然農園や持続可能型農園を訪れ、ボランティアとして働きました。そこで出会った人々は、自然保護への意識が高く、有毒な化学物質を使用していない作物を育てて食べることを楽しんでいました。和歌山県の米市農園、三重県の赤目自然農塾、長野県のシャンティックティに是非行ってみてください。

山を越え、谷を越え、長野県を抜けて、新潟県の山あいにあるGaiA というカフェ、キャンプ場に行きました。GaiAを運営されているご夫婦は、僕が人生で出会った中でも最もオープンなご夫婦でした。その人柄に引き寄せられたたくさんの旅行者、教師、ミュージシャンなどなど、さまざまなゲストでいつもにぎわっていました。キャンプファイヤーで料理を楽しんだり、ワークショップをしたり、芸術や音楽の創作活動をしたり、踊ったりヨガをしたり、薪割りをしたり農作業をしたり語り合ったり。GaiAは本当に唯一無二の場所でした。

山形では、ニュージーランドから来た友人と合流しました。彼は僕たちをベジタリアンレストランに案内してくれました。ここでは、種から育てた日本の在来野菜を食べることができます。在来野菜の種を守り、また、その大切さを広く知ってもらう活動をされています。オーナーは日本の在来野菜の歴史をとてよくご存知でした。それぞれの種がいつ、どこから伝わったのか教えていただきました。在来作物を後世に残すというとても大切な活動をされているオーナーでした。

北海道はニュージーランドによく似ていました。延々と続く人気のほとんどない道、広大な自然と農場。北海道の夏は涼しく快適でした。（市街地以外）北海道には11日間滞在しましたが、毎晩テントの外で眠りました。

四国へと戻ってくる途中、GaiA と米市農園にもう一度立ち寄りました。たくさんの方々とのお話をもう一度振り返りました。みんなが共通して言っていたことで僕の印象に残っているのは、日本人には、日本の現状を変えようとする声も力も、自分たちにはないと思っている人が多い、ということでした。だから、みな、周りの人のやり方に従うか、自分たちのやり方を通すとしても、社会や政府に訴えようとはせず、友人の助けを借りています。「日本人は飼いなされたペットのようだ。」と何人かの人に言われました。僕もそう感じています。

みなさんはどうでしょうか。疑問を抱くことなく指示に従いますか。みなさん自身が自ら考えた自分なりの信念や意見を持っていますか。打たれるのが怖いから出る杭になることを避けますか。家族のように思っている日本のみなさんには、自分自身のために考え、発言し、行動する勇気を持ってもらいたいと僕は願っています。最後に、この旅を通して僕が得た一番大きな気づきは、日本の調和と便利さよりも、ニュージーランドの自由と率直さと生活の質の方が、僕にとってはより価値があるということでした。

訳: 小越二美 (Fumi Kogoe)

